

隠岐の島町立西郷小学校 第6学年 外国語活動 学習指導案

平成30年7月6日(金) 5校時

指導者 T1 教諭 濱田 貴士

T2 ALT レイチェル・モンバー

場 所 ランチルーム

1 単元名 She can run fast. He can jump high. (We can!1 Unit5)

2 単元目標

・第三者のできることやできないことを進んで紹介し合おうとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

・第三者のできることやできないことについての表現に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

・he と she の意味の違いや音の特徴に気付く。

【言語や文化に関する気付き】

○語彙・表現

ねらいとなる表現	語 句
He can / can't ~. She can /can't ~.	<p>◆第三者を表す代名詞 he, she</p> <p>◆play ○○ soccer / badminton /table tennis / volleyball / shogi / kendama /the recorder / the piano</p> <p>◆do ○○ kendo / judo</p> <p>◆ride a ○○ bicycle / unicycle</p> <p>◆その他(目的語をとらない動詞) swim, skate, cook, run fast, sing well</p>

○単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する 気付き
第三者のできることやできないことを進んで紹介し合おうとしている。	第三者のできることやできないことを言っている。	he と she の意味の違いや音の特徴に気付いている。

3 学習の基盤

(1) 教材について

本単元では、三人称「he」「she」を主語として、できることやできないことを表現する内容を扱っている。学習指導要領の改訂に伴い、第5学年の学習内容に新たに加わった単元であり、今年度は移行措置として第6学年で扱うこととしている。

本単元の前には、「I can swim.」の学習をしている。そこでは、「I can/can't 〇〇.」「Can you 〇〇?」の表現を使い、自分のできることやできないことを伝えたり、相手に尋ねたりする活動を行う。単元のゴールを「職員室インタビューⅢ～先生方のできること&できないこと調査隊～」として、緊張感を持ちながら、相手とよりよくコミュニケーションをとるための工夫を考えつつインタビュー活動を行う。ここで得た情報を本単元「She can run fast. He can jump high.」でも活用する。

これまで、「I」「You」についての表現を扱ってきたが、児童は本単元で初めて、第三者である「He」「She」の表現に出会う。「I」「You」「He」「She」の使い方やそれぞれの相違点、共通点等について、モデル会話等を使って、児童自身の気づきを大切にしながら、これまで「伝えなかったけど伝えられなかったもやもや感」を解消し、児童の表現の幅が広がる単元である。自分のことだけでなく、自分が相手に伝えたいと思う様々な人を話題にすることで、コミュニケーションが広がることを体感させたい。

(2) 児童について

〈個人情報保護のため省略〉

(3) 指導について

本時では、前単元で学習した「I can/can't」の表現を使いながら、自分と聞き手以外の第三者についての表現（he と she）における気づきをねらいとしている。次の3つを学習活動の柱として、ねらいに迫りたい。

① Warming up

児童が自由に歩き回り、既習の表現を用いて友達とコミュニケーションをとる「WALK & TALK」を4月から帯活動として実施している。本時は、「Can you 〇〇?」の表現を用いる。自分と同じことができる友達を見つけたら握手をするという交流も取り入れながら、表現の定着をねらうとともに、児童同士のより良い人間関係づくりの一助として実施して

いる。この時間で体を動かしたり個別に発話したりして、リラックスしてその後の活動に入ることができるよう配慮している。

② Main Activities

本時のメインとなるのは、ALTやT1のモデル会話等を聞きながら、児童が初めて出会う三人称「he」「she」の特徴に気づき、その気づきを全体でシェアする活動である。

まず、単元終末の言語活動【西小外国語活動マスコット】オーディションの概要を児童に伝える。採用される5体のマスコットの用途や、本校管理職を審査員に迎えること等を伝えることで、児童の関心は強まり、この後の学習により主体的に向かうことが期待される。児童が必然性をもって英語を使う場面を生み出す工夫として設定した。

次に、教師の考えたオリジナルマスコットを示し、「He can ○○.」「She can ○○.」の表現を用いてできることを説明する。ここで、「He は男性です」と説明するのではなく、「男のことは he って言ってるみたいだな。」といった児童自身による気づきを大切にしたい。そのために、男性マスコットと女性マスコットの両方を準備し、なおかつそれぞれ複数準備し、自然な形で繰り返し用いることで、児童の気づきを支援したい。中学校では「he」は「彼」、「she」は「彼女」と和訳されることが多いが、小学校生活においては第三者を「彼」や「彼女」と表現することはないという児童の実態を考慮し、和訳をせず、「男のことは he って言ってるのかな。」という児童の気づきと、それを繰り返すことで概念化することを大切にする。

その後は、前単元で得た本校の教職員の「できる」「できない」の情報を用いて英語双六をグループで行う。サイコロを振って止まったマスに描かれた教職員の「得意なこと」について、性別を意識しながら「できる」「できない」を口にする内容になっており、直前の聞く活動で気づきが不十分だった児童も、友達同士での関わり合いの中で「he」と「she」の特徴に気づくことを期待したい。

③ Looking back

振り返りカードにその日の学んだことについて記入する。児童の気づきや感想を全体に広める。その際、ねらいに沿った振り返りができるように配慮する。また、児童のがんばりやよかったところも認め、ほめることで児童へ満足感を与えるとともに、次時への意欲を高めたい。

4 単元計画 本時（1 / 3 時間）

時	ねらい ※太字は児童用	主な活動	評価			
			コ	慣	気	評価規準
①	<p>【西小外国語マスコット】 の「できる」「できない」の 言い方を知ろう！ 第三者の「できる」「できな い」の表現を知り、he と she の違いに気づく。</p>	<p>○レイチェル&たかしタ イム ・教師の考えたマスコットの 「できる」「できない」 ○ゲーム ・英語双六</p>			◎	<p>第三者を表す言い方 (he と she) の違いに 気付いている。</p>
2	<p>【西小外国語マスコット】 プレゼン練習をしよう！ 第三者の「できる」「できな い」の表現に慣れ親しむ。</p>	<p>○ゲーム ・英語双六Ⅱ ○プレゼン練習</p>			◎	<p>第三者のできることや できないことを言っ ている。</p>
3	<p>【西小外国語マスコット】 プレゼン大会をしよう！ 第三者のできることを積極 的に伝える。</p>	<p>○【西小外国語マスコッ ト】プレゼン大会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>Hello! It's Muteki man. This is the man. He can swim. He can play baseball. Thank you. See you!</p> </div>			◎	<p>第三者のできることを 友達に積極的に伝えよ うとしている。</p>

※ 評価は毎時間<行動観察>と<振り返りカード>により行う。

※ マスコットのデザインは図画工作と関連付けて制作する。

5 本時の活動の流れ

(1) ねらい

- ・第三者の「できる」「できない」の表現を知り、he と she の違いに気づく。

(2) 展開

	時	児童の活動	◎T1の支援 ●ALTの支援 ☆評価
Warming up	②	①あいさつ	◎明るい雰囲気ですスタートする。
	⑤	②WALK & TALK 「Can you ○○?」の表現を用いて2分間児童同士で会話をする。	◎全体を観察し、戸惑っている児童がいれば助言したり励ましたりする。 ●児童の良さを認め大いに褒める。
Main Activities	⑬	①学習のめあての把握 【西小外国語マスコット】の「できる」「できない」の言い方を知ろう！	◎児童が見通しを持って活動できるよう、単元計画を示す。 ◎教師の考えたオリジナルマスコットのデザインを掲示し、児童の関心を引く。
		②レイチェル&たかしタイム ・授業者の考えたオリジナルマスコットの紹介を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">It's my original mascot "Muteki girl". She can swim well. She can do kendo.</div> ・気づいたことを発言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">・男の人には「he」を、女の人には「she」を使っているな。 ・自分や聞き手ではない人のことを言う時に「he」「she」を使っているようだ。</div> ・「he」「she」を言ってみる。	◎男性、女性それぞれのオリジナルマスコットを示し、「he と she」を加えて説明をすることで、主語と性別の関係に気づかせる支援とする。 ●対象の性別を強調して話すことで、それが「he」「she」に対応していることをアピールする。 ★第三者を表す言い方 (he と she) やその違いに気付いている。 【発言・振り返りカード】 ◎紹介したマスコットの特技を尋ねることで児童から自然な形で「He/she can ○○。」の表現を引き出す。
	⑮	④英語双六 ・4人グループで行う。 ・止まったマスに応じて「He/She can/can't」の表現を使い教職員の「できる」「できない」を口にする。	◎児童が安心して活動できるようデモンストレーションを行う。 ●ゲームに参加し、困っている児童へ支援をする。
Looking back	⑤	①活動の振り返り ・振り返りカードに記入する。	◎振り返りカードを自己評価、相互評価に生かす。
	②	②教師のコメント	●よかったところを大いに褒める。 ◎次時の活動を伝える。
	①	③あいさつ	◎明るい雰囲気です授業を終える。

(3) 授業の視点

- ・ALT とのモデル対話を設け、性別に配慮しながら繰り返し聞かせたことは、児童に「he」「she」の使い方や共通点、相違点を気づかせる上で有効であったか。